

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

| 視点                | 4年間の目標<br>(令和2年度策定)   | 1年間の目標   | 取組の内容  |   | 校内評価  |   | 学校関係者評価<br>(3月26日実施)   | 総合評価 (3月28日実施)   |   |
|-------------------|---|--|--|---|---|---|--|--|---|
|                   |   |  | 具体的な方策   | 評価の観点   | 達成状況  | 課題・改善方策等  |  | 成果と課題  | 改善方策等   |
| 1<br>教育課程<br>学習指導 | <p>①主体的に学ぶ意欲を高め、確かな学力を育む教育課程編成に取り組み、これからの時代を逞しく生きていく力を身に付けさせる。</p> <p>②多様な形態の学習機会を提供し、共通教科・科目の学習の充実及び、看護・医療・社会福祉の専門教育の充実を図り、将来の職に求められる教養を身に付けさせる。</p> | <p>①主体的に学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着を図る。ICTを活用し「個別最適な学び」の充実に取り組む。新学習指導要領の理念を柱に主体的・対話的で深い学びの授業改善に組織的に取り組む。</p> <p>②共通教科と専門教科をバランスよく学び、上級学校進学に向け、自ら学ぶ力を育成するとともに将来の職業に求められる資質・能力を身につけさせる。</p>  | <p>①各教科で生徒が主体的に基礎学力の定着を図れるような授業展開を計画する。教科会を中心にそのための組織的な授業改善への一助として相互授業見学・研究授業（公開）を行う。新学習指導要領に基づき指導と評価の計画を作成し、指導と評価の一体化に取り組む。</p> <p>②相互授業見学で共通教科と専門教科の間で互いに授業を見学し、自身の教科でいかせるようにする。生徒の資質・能力の向上に向けて個別最適な学び、協働的な学びにICTを活用し取り組む。</p>   | <p>①・生徒による授業評価に基礎学力の向上が見られたかという観点を作り、生徒各自に評価してもらい教科会等で分析し、授業改善にいかすことができたか。定期テストや模擬試験の結果をもとに分析し、基礎学力の向上や授業改善につなげることができたか。</p> <p>・適切な指導と評価の計画を作成し、指導と評価の一体化につなげることができたか。</p> <p>②相互授業見学の報告書から様々な教科の見学が増えているか。</p> <p>・ICTを活用した授業の増加が見られたか。効果的な利活用の授業実践の取組が増えたか。</p>  | <p>①・生徒による授業評価で新たに追加した基礎学力の向上に関する項目では98.8%の生徒が向上したと回答した。教科会で分析した結果を職員会議で共有した。定期テストや模擬試験の分析も行った。</p> <p>・研究授業については教科をグループに分け、グループ単位で新たな取組を検討できるよう改善した。</p> <p>・指導と評価の計画では1学年は2年目で改善し、2学年は新たに作成した。</p> <p>②前期は1科目、後期は2科目の見学を職員に科した結果、見学者数は昨年より増加した。ICTを積極的に活用した授業で見学者数が多かった。</p>  | <p>①・生徒による授業評価では各教科とも概ね目的を達成したが、より質の高い授業実践に向け職員の授業力向上に組織的に取り組む。</p> <p>・研究授業はテーマに則した授業が実施された。次年度もこの形式での実施を計画する。生徒の研究授業後のアンケートの活用を検討する。</p> <p>・指導と評価の計画の作成、生徒への提示については、全職員が主体的に取り組むことが課題である。年間を通じて工夫のある授業の実施を校内に周知し、いつでも見学できる環境づくりに取り組む。</p>  | <p>・設定された課題に向けて全職員が主体的に取り組む姿勢は評価できる。</p> <p>・主体的に学ぶ意欲と基礎学力の定着と向上は社会に出てとても大事なことで、さらなる指導を継続して行ってほしい。</p> <p>・生徒の授業評価で。職員が授業改善の取組がどう関連があったのかいろいろな角度から整理する必要がある。</p>   | <p>・主体的に学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着と向上が課題である。研究授業ではグループ単位で見学・協議をする場を設け、充実した内容となった。</p> <p>・ICTの利活用では、教員の多くがICTを活用した授業を行った。効果的な利活用が課題である。職員相互で研鑽し授業力向上を推進することが課題である。</p>  | <p>・組織的な授業改善に向け全職員で取り組む。研究授業では教科会を柱に、ICTを活用し今年度のテーマに継続して取り組む。</p> <p>・学科改編をふまえ、指導と評価の計画を作成する。</p> <p>・指導力向上に向け、相互授業見学など教職員相互で高めあう機会をもち研鑽する。</p>   |
| 2<br>生徒指導・<br>支援  | <p>①部活動や行事、日常的な生活指導を通して、社会規範を身に付け、責任感や連帯感を図り、自己実現に努力する姿勢を育てる。</p> <p>②組織的な教育相談体制のもと、課題を抱える生徒の支援に取り組む中で、困難を乗り越える力の育成を図るとともに、安全・安心な学校生活を確保する。</p>       | <p>①(1)生徒主体の行事を充実させ、部活動の活性化を図り、責任感や連帯感を高め、生徒自ら考え行動する力やコミュニケーション力を育成する。</p> <p>①(2)日常的な生活指導を通して生徒の規範意識を高める。自己肯定感を高め、自己実現に努力する姿勢を育成する。</p> <p>②(1)全職員で生徒情報を共有し、校内のSCやSSW、外部機関と連携した教育相談を行い、組織的な支援体制を推進する。</p> <p>(2)職員研修の充実を図り、生徒・保護者理解へのスキルを高める。</p> | <p>①(1)委員会の活動を通じて各生徒の自己有用感を醸成する。部活動の活動の様子を外部へ広報するとともに大会参加や日々の練習を通して連帯感を育む。</p> <p>①(2)頭髪服装指導を、計画的に実施するとともに、日々の学校生活の中で全職員が共通理解のもと意識的に行う。</p> <p>②(1)生徒情報交換会やケース会議等を通して情報共有および支援方法を確認し、職員で統一した指導・支援を図る。面接等を計画的に行い生徒の状況を把握し生徒一人ひとりの心に寄り添う指導を行う。組織的な教育相談体制を推進し、外部機関との連携を進める。</p> <p>(2)生徒が抱える問題をテーマとした教育相談職員研修を実施する。</p> | <p>①(1)放送委員会によるお昼の放送実施や新聞委員会による新聞作りの促進などを通じて、学校への帰属意識とともに学校生活への充実感を持たせることができたか。また部活動の様子をInstagramを通じて外部に広報することができたか。</p> <p>・部活動の取組状況</p> <p>①(2)頭髪服装指導期間における指導対象生徒数が減少したか。</p> <p>全職員が共通理解をもち取り組む体制を推進できたか。面接等を生徒支援にいかす取り組みを進めることができたか。</p> <p>②(1)組織的な情報共有および問題を抱える生徒に必要な支援につなぐことができたか。</p> <p>(2)生徒支援に係る研修を通して生徒・保護者対応に活かすことができたか。</p> | <p>①(1)放送委員会では毎週1回、各クラスの放送委員がお昼の放送を行い、年間を通じて行うことができた。新聞委員会も新聞作成を行った。他の委員会も昨年度より活発な活動を行った。部活動の様子も広報することができた。</p> <p>①(2)頭髪服装指導では指導計画に沿って実施した。夏休み明けに指導の対象になる生徒数が増加したが、以降減少することができた。</p> <p>②(1)生徒情報交換会を2回、個別面談を2回、夏季休業中に三者面談を実施した。またSC・SSWや「かながわサポートドック」を活用し、必要に応じて面談や外部機関に繋ぎ、困難を抱える生徒を組織的に支援した。</p> <p>(2)全職員を対象とした自殺防止に関する研修および生徒情報交換会を行い全職員で情報共有し、個々の生徒に寄り添う支援にいかした。</p> | <p>①(1)目標はほぼ達成できたと考えられる。今後は生徒からの要望をいかし、委員会活動の活性化に向け、ボトムアップの活動ができるように工夫し取り組む。</p> <p>①(2)頭髪服装指導では、長期休業明けに指導対象生徒数を増加させない取組の工夫を図る。</p> <p>②(1)組織的な支援体制の強化を進める上で、教育相談コーディネーターの更なる活用が課題である。また教員ひとりひとりの傾聴・対話能力など生徒支援に係るスキルアップが課題である。より効果的な職員研修の実施も課題である。</p> <p>(2)自殺防止研修については来年度も継続し実施する。さらに、若年層のメンタルヘルスに関する情報提供を行い、生徒・保護者対応に活かせるよう組織的な支援体制の強化を図る。</p> | <p>・生徒指導・生徒支援に地道に取り組んでいる。今後も尽力してほしい。</p> <p>・放送委員の活動を継続してほしい。</p> <p>・3つのC（創造・挑戦・継続）を生徒が取り組めるよう教職員が導いていくとよい。</p> <p>・登下校時のマナーは家庭での指導が当然だが風紀委員が対応してもよい。規範意識の低下が心配である。</p> <p>・メンタルヘルスサポートについては今後も強化していく必要がある。</p> | <p>・放送委員会や新聞委員会をはじめ充実した委員会活動ができてきた。</p> <p>・頭髪服装指導を定期的に行った。夏季休業あけの指導が課題である。登下校指導やあいさつなど日々の規範意識の醸成が課題である。</p> <p>・生徒情報交換会やサポートドックで困難を抱える生徒の支援に組織的に取り組んだ。ケース会議などさらに組織的な取組の推進が課題である。</p> <p>・外部機関と連携した自殺防止研修を行い、職員の意識の醸成を図った。</p> | <p>・生徒主体の活動の充実を図る。委員会活動や部活動の活性化を図り、生徒の自主性や責任感・連帯感を醸成する。</p> <p>・頭髪服装指導をしっかりと行い生徒の規範意識を高める。</p> <p>・生徒情報交換会やサポートドックを適切に行う。教育相談コーディネーターを活用し、ケース会議など組織的な支援体制を確立する。</p> <p>・自殺防止研修を引き続き行い教職員のスキルアップを図る。</p> |

|   | 視点           | 4年間の目標<br>(令和2年度策定)   | 1年間の目標  | 取組の内容  |  | 校内評価   |  | 学校関係者評価<br>(3月26日実施)   | 総合評価(3月28日実施)   |  |
|---|--------------|---|---|--|--|--|--|--|---|--|
|   |              |   |   | 具体的な方策   | 評価の観点  | 達成状況   | 課題・改善方策等   |  | 成果と課題   | 改善方策等  |
| 3 | 進路指導・支援      | ①社会に奉仕する心を育み、看護・医療・社会福祉などの分野における、社会の良き担い手として活躍できる人材を育成する。<br>②進路実現に向け、自らのキャリア発達を意識できる、3年間を見通した進路指導の充実を図る。 | ①(1)将来ヒューマンサービスに従事する人材として、社会人基礎力と上級学校進学に向けた学力の向上を図る。<br>①(2)校外実習や講演会等を通して「看護の心」「福祉の心」を育み、自ら「できること」の互助を考えさせる。<br>②3年間を見通したキャリア教育を実践する。キャリアパスポートを活用し自己の生き方在り方を考えさせる。上級学校進学に向けてガイダンスの充実を図り、生徒の進路実現を支援する。 | ①(1)様々な経験を通して実践力を身に付けられる支援をする。授業・模擬試験等の振り返りを充実させる。保護者への情報発信方法を模索する。<br>①(2)共感力や想像力を磨くため「求められていること」を捉えた活動等への積極的な参加を促す。小さなことから取り組んでいる住民組織の活動等の情報収集を行い、地域や社会が豊かさを感じられるよう、社会課題の解決に取り組ませる。<br>②進路に関する情報発信やガイダンス等で、各学年における取組を把握させ計画的に取り組ませる。卒業生による進路説明会で、学習方法や進路選択の考え方を学び、自分の強みを活かし、進路実現に向けて自信と目標を身につけさせる。 | ①(1)人として熱意を持ち専門職としての自覚を有するための指導を実践できたか。<br>・進路状況等。<br>・キャリア教育や授業の取組実践<br>①(2)奉仕活動を通して、更に地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと生徒が感じることができたか。<br>・ボランティアや体験活動などの「したいこと」の達成状況等。<br>②進路実現に向けて努力する過程を指導、援助することが出来たか。<br>・各学年における進路希望調査と進路状況や各種振り返り状況等。<br>・卒業生による進路説明会、情報発信やガイダンス等の実施状況 | ①(1)総合的な幅広い知識を身につけ、多様なヒューマンサービスを実践できる素地を培うことができた。<br>・保護者にマチコミを通して模擬試験日程を発信したことで、模擬試験への参加者を一定数確保できた。<br>①(2)他人の価値観の多様性を認め、互いを尊重できる人権意識を身につけることができた。<br>・勤労を尊び、良心や思いやり、奉仕の心をもち社会に貢献することを仲間とともに目指し実践することができた。<br>②担任を中心として生徒の能力や適性を見極め、丁寧な進路指導ができた。<br>ガイダンス、オリエンテーション等では、進路実現に向けてどんな道筋や方法があるのかを考えさせ、より強い進路目標の設定の支援ができた。 | ①(1)基礎的な知識を柔軟に組み合わせ、課題に対応する力が足りない生徒がいる。授業や行事を通して、知的好奇心を喚起し主体的学習態度や創造的な力を育成することが課題である。<br>進路状況について、進路研修会を実施し、全職員で、大学入試改革に向けて対応できるよう取り組む。<br>①(2)ボランティア活動では、地域の活性化の必要性を理解させ、人々との関わり中で、豊かな人間性と社会性を身につけさせる。<br>・福祉科の社会福祉分野への進学者を増やしていく。<br>②卒業生による進路説明会の効果的な在り方が課題である。<br>・生徒の進学先は「生涯学習」が求められる分野なので、「勉強が苦でない」生徒、「主体性を持った」生徒を育てる取組を進める。 | ・進路指導において様々な工夫されており、さらに良いものをめざし努力を惜しまない姿勢は評価に値する。<br>・生徒が自らの進路を主体的に決めるにあたり、上級学校と連携を図ることもさらに検討していくとよい。<br>・ボランティア活動は豊かな人間性を育むためにも継続できるとよい。<br>・知的好奇心やあきらめない心を養うため、自分が納得するまで「調べ学習」の楽しさを導いてほしい。 | ・総合的な幅広い知識を身につけ、将来多様なヒューマンサービスを担う措置を培うことができた。<br>・模擬試験を受験する生徒が増加した。<br>・卒業生による進路説明会や計画的なガイダンスにより生徒の進路実現を支援することができた。<br>担任を中心として学年全体で生徒の能力や適性を見極め、丁寧な進路指導につなげた。<br>・ボランティア活動への生徒の意識を高めることができた。 | ・生徒の進学先は、「生涯学習」が求められる分野である。自ら学ぶ力を養い、基礎的な知識を柔軟に組み合わせ課題に対応する力を育み、学力の向上に取り組む。<br>・生徒のボランティア活動を支援し、豊かな人間性と社会性を身につけさせる。<br>・福祉科の特色を明確に学習の充実を図り、社会福祉分野への進学者を支援し増やしていく。 |
| 4 | 地域等との協働      | ①地域の期待に応え、地域に開かれた学校としての取組みをさらに進め、協働と信頼に根ざした学校づくりを推進する。<br>②地域と連携した防災体制の整備を促進し、社会参画の意識を醸成する。               | ①(1)地域の協働と信頼を得るために学校の活動や取組をHPやInstagram等を活用し地域に発信する。<br>①(2)地域と連携し、生徒の委員会活動や部活動の発表の場を設ける。<br>②生徒と地域とで連携した防災活動を実施する。   | ①(1)行事や授業、部活動での地域との協働的な活動の様子をInstagramやHPで紹介する。<br>①(2)InstagramやHPにより地域との新たな連携の呼びかけを行う。<br>②地域と連携した防災訓練を行う。また生徒会の生徒と文化祭開催の告知を行う。部活動等での地域連携に取り組む。  | ①InstagramやHPで地域と連携した活動の紹介ができたか。<br>①新たな地域連携の場を設けることができたか。<br>②地域と連携した防災訓練を実施できたか。<br>文化祭ポスターを生徒とともに地域や近隣施設に掲示依頼をすることができたか。<br>部活動等の地域連携を進めることができたか。   | ①地域のイベント等への部活動の参加や施設でのボランティア活動など、地域との交流や連携を行った。HPによる情報発信も充実してできた。<br>②地域の消防署と連携した体験を交えた防災訓練や、外部機関の講師を招き保護者も参加してのDIG研修を実施することができた。<br>②文化祭ポスターの掲示依頼を地域や近隣施設に行うことができた。   | ①HPやInstagram等による情報発信をスムーズに行うための工夫が課題である。学科改編に向けて、適時に情報を発信できるよう取り組む。<br>②地域の消防署や機関との連携を継続するだけでなく、地域の自治会との連携を図る。また、近隣の小・中学校との連携を進める。  | ・Instagram発信の影響力は大きい。生徒を巻き込んで発信するものよいのではないかと。<br>・外部機関と連携したDIG研修は評価したい。さらに小中学校や近隣の自治会と連携をしてほしい。  | ・新型コロナウイルス感染症が5類になり部活動の地域イベント等への参加など交流の機会が増えた。<br>・外部講師を招き、DIG研修を行った。保護者の参加もあり有意義な活動ができた。   | ・Instagramによる情報発信を定期的に行う。日々の生徒の活動や学科改編に係ること等を適時に発信する。<br>・防災やイベントへの協力等地域と連携した活動を推進する。  |
| 5 | 学校管理<br>学校運営 | ①保護者や周辺地域に対して、本校の教育活動に対する理解を深化させる。<br>②情報管理の徹底を図り、さらなる校務処理の情報化を推進し、事故・不祥事の根絶を徹底する。<br>③教員の働き方改革を推進する。     | ①保護者や地域に対して適期に情報を発信する。<br>令和7年度の学科改編に向け準備委員会を中心に全職員で取り組む。<br>60周年行事に向けて準備する。<br>②入学者選抜や成績処理等個人情報管理を徹底し、事故・不祥事防止を实践する。体育館耐震工事で生徒の安全に配慮する。<br>③働き方改革では職員が主体的に業務を遂行できるよう取り組む。                            | ①InstagramとHPの他、紙媒体による情報発信の場を開拓する。学科改編に向け準備委員会・校内ワーキンググループを中心に全職員で取り組む。適宜情報を発信する。60周年委員会を立ち上げ、各グループと協働し準備を進める。<br>②不祥事防止会議、職員研修を適宜行う。体育館の耐震工事で、生徒・保護者へ適宜状況を伝え安全に配慮する。<br>③業務の効率化、タイムマネジメントに教職員が意識をもち取り組む。当事者意識をもち、主体的に業務を遂行する。   | ①新たな情報発信の場を設けることができたか。<br>紙媒体によるちらしや学校案内等で工夫し効果的に活用できたか。<br>・学科改編や60周年事業を関係部署と連携し、組織的に円滑に進めることができたか。<br>②職員研修を計画的に実施できたか。<br>体育館の改修工事を安全に配慮し実施できたか。<br>③マニュアルの作成や業務の引継ぎを適切に行い業務の効率化を進めることができたか、会議時間の短縮や定時退庁等タイムマネジメントの職員の意識の向上が見られたか。                                | ①新たに、Instagramによる学校説明会の紹介をした。学校案内やちらしを刷新し効果的に活用した。<br>・県立高校改革実施計画(Ⅲ期)の学科改編に係る設置計画案を策定した。<br>・60周年記念事業実行委員会を発足させた。令和6年11月の記念式典に向け、式典やの内容や記念誌の発行、記念品等について各グループが準備を進めている。<br>②体育館耐震工事が1月に終了し無事に引き渡された。<br>③働き方改革では学科改編や推薦入試に係る業務でより効果的な取組を進めることができなかった。   | ①学科改編に向け、紙媒体によるちらしや学校案内等の効果的な作成と活用方法の検討が課題である。またHPや学校説明会等の効果的な実施が課題であり、解決に向け取り組む。<br>・学科改編の取組を進めるとともに、在校生が安全に充実した学校生活を送れるよう全職員で取り組む。<br>・60周年記念事業を実行委員会を中心に円滑に実施できるように取り組む。<br>②次年度の学科改編や福祉科に係る工事を事務室と連携し円滑に安全に行う。<br>・業務の効率化を図り、職員がやりがいもち業務を遂行できるよう取り組む。  | ・学科改編をはじめ様々な取組で工夫されている。全職員が同じゴールに向かって進んでいくよう取り組んでほしい。<br>・業務の効率化に加えて職員間の連携をとり、働き方改革を課題として取り組んでほしい。<br>・60周年記念事業が活性化してきたのでHPで途中経過を報告することで、さらに全体行事となると思う。                                      | ・学科改編に向けちらしや学校案内、HP等の動画など積極的に取り組み、成果となった。<br>・体育館の改修工事では計画通り終了することができた。<br>・60周年実行委員会を立ち上げ取り組んだ。<br>・働き方改革では業務改善を進めることができなかった。教職員が働きがいもち業務を遂行できるよう取り組む。                                       | ・学科改編に向け紙媒体によるちらしや学校案内等を効果的に作成する。InstagramやHPを定期的更新し本校の魅力と特色を発信する。<br>・60周年記念事業の成功に向け実行委員会を中心に取り組む。<br>・教職員が働きがいもち業務を遂行できるよう取り組む。                                |

